

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

建設整備事業

事務事業の段階

計画 事業化 事業 管理

政策名	1 グローバルロジスティクスの港		24年度事業・個別施策評価結果 (今後の取組みの方向性)			責任者	企画調整室 企画担当課長
基本施策名	01 国際・国内海上輸送機能の強化		事務事業	成果	コスト	連絡先 連携課	052-654-7968
個別施策名	07 ポートマーケティング機能を強化する					事業期間	昭和46年度～継続
事務事業名	01 日本港湾経済学会中部部会における調査研究		継続	維持	維持	根拠 法令等	日本港湾経済学会中 中部部会会則
目的	調査研究結果を港湾運営、経営戦略に活用してもらいます。					実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
概要	日本港湾経済学会中部部会の事務局として、理事会・総会の準備、研究報告の取りまとめなどをおこない、中部地区港湾の貿易・物流動向を調査研究します。					関連 シート	
平成25年度の実施予定	中部部会理事会の開催(6月14日)、中部部会(総会・研究報告会)の開催(8月12日) 日本港湾経済学会全国大会(第52回)への出席(8月28日～30日) 中部地区の港湾を対象とした諸問題に関する調査研究						

2 DO(実施)

平成25年度に実施した内容・結果	平成25年度は、6月14日「日本港湾経済学会中部部会理事会」、8月12日「日本港湾経済学会中部部会(研究報告会・総会)」を開催し、3つの研究報告のとりまとめを行いました。また、8月28日～30日に富山で開催された「第52回日本港湾経済学会全国大会」に日本港湾経済学会の法人会員及び役員(評議員)として参加しました。また、26年3月5日には東邦ガス知多緑浜工場への工場見学を行い22名の参加がありました。							
コスト(年度)	単位	21(実績)	22(実績)	23(実績)	24(実績)	25(実績)	合計	備考(款項目節等)
事業費計	千円	606	344	595	589	593	2,727	(款項目節) 歳出:企画調整費/企画調整管理費/ 企画調整総務費/委託料、印刷製本 費、負担金、旅費
一般会計	千円	606	344	595	589	593	2,727	
事業会計	千円							(算出計算式)
その他	千円							130,000×3=390,000、116,000、 40,000、46,920
人員費計	千円	4,548	5,089	5,603	5,230	5,256	25,726	(その他)
正規職員	人	0.53	0.60	0.65	0.60	0.60		
嘱託職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
合計	千円	5,154	5,433	6,198	5,819	5,849	28,453	

3 CHECK(検証)

活動・成果 指標	年度	21	22	23	24	25	中間目標	25	備考(指標の算定方法など)
調査研究件数(件)	目標	3	3	3	3	3		3	①名古屋港における選択要因と災害 による経済波及効果の研究 ②名古屋港を起点としたサプライチェ インネットワークの評価 ③ECFAの締結にともなう貿易・物流 の変化
	実績	3	3	3	3	3			
	達成率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	達成率(%)	-	-	-	-	-			
研究報告会の参加者数(人)	目標	70	70	70	70	70		70	研究報告会の参加者数を把握 することで、調査研究への関心 度を把握します。
	実績	62	67	75	61	72			
	達成率(%)	88.6	95.7	107.1	87.1	102.9			
	達成率(%)	-	-	-	-	-			
平成25年度までを総括した 必要性・有効性・効率性の確認		判断理由(課題の抽出)						その他特記事項	
必要性	どうしても必要な事業か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/>							
	利用者のニーズは高いか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/> 港湾運営に活かすことができる調査研究ができていますので、日本港湾経済学会中部部会の必要性、ニーズは高いものであったと考えられます。							
	本組合が関与する必要があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/>							
有効性	目的や目標の水準は妥当か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/>							
	目標を達成したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/> 現政策体系の5年間に於いて、調査研究件数は目標を達成することができていますが、研究報告会の参加者数は、目標を達成できない年度もありました。							
	個別施策へ貢献したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/> 港湾を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、経済の観点から調査研究に取り組みでいくことで、有効性は発揮されていると判断しています。							
効率性	最小のコストで成果をあげているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/>							
	受益者に適正に負担させているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/> 研究報告は港湾経済についての専門家に依頼しているので効率的であったと考えられます。							
	効率的な運営主体となっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○・ <input type="checkbox"/> × <input type="checkbox"/>							

4 ACTION(取組)

個別施策評価結果による今後の取組みの方向性	事務事業	成果	コスト	判断理由
	継続・統合			・港湾物流に関する学術的、学際的な研究は必要であるため。 ・経済・物流動向調査に係る事業として統合。
個別施策評価結果を踏まえた来年度以降の取組み				

本港における現在の取組および課題などについて、調査研究者と情報交換を図ることにより、調査研究内容の更なる充実を図ります。中部部会の専用ホームページやニュースレター(E-mail)により活動内容を幅広くPRし、研究報告会の参加者数および会員数の増加を図ります。